

1 核兵器廃絶に向けた取組の推進について

(外務省関係)

要望内容

核兵器廃絶に向けた取組の推進

(要 旨)

本市は、国内外の 8,200 を超える都市が加盟する平和首長会議やこれら加盟都市の市民、NGO 等と連携して、核兵器廃絶を目指した取組を積極的に展開してきました。令和 3 年 7 月には、平和首長会議の活動指針である「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」(略称：PX ビジョン) 及び行動計画を策定し、引き続き加盟都市との連携の下、「核兵器のない世界」の実現に向けて取り組んでいます。

核兵器をめぐることは、各国において核戦力の近代化が図られ、さらには、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中で、核抑止力は必要であるという考え方が強くなる傾向にあり、国際社会がこれまで築いてきた核軍縮・不拡散体制への信頼が大きく揺らぐ状況になっています。

こうした中、本年 5 月に開催された G 7 広島サミットでは、G 7 各国及びオーストリア国の首脳に加え、ウクライナの大統領の平和記念資料館の視察や被爆者との対話の実現し、各国首脳は、それぞれの核兵器廃絶に向けた思いを芳名録に残されました。

また、原爆死没者慰霊碑に参拝・献花をしていただき、碑文に込められた「ヒロシマの心」を各国首脳にはしっかりと受け止めていただきました。

さらに、G 7 で初めて核軍縮に特化した「核軍縮に関する G 7 首脳広島ビジョン」が発出され、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現に向けた G 7 首脳のコミットメントが再確認されました。

このように、各国首脳が被爆の実相に直接触れ、「ヒロシマの心」を受け止めていただき、核兵器のない世界の実現を目指すというメッセージが世界に発信されたことは大きな意義がありました。

本市としては、G 7 広島サミットを契機として、国際社会が核兵器廃絶に向かって着実に前進するよう、被爆の実相を「守り、広め、伝える」取組を更に進めるとともに、平和首長会議加盟都市とともに、市民一人一人が日常

生活の中で平和について考え行動する平和文化を振興し、広く市民社会に「ヒロシマの心」への共感の輪を広げていく取組により一層尽力していきます。

国においては、本市の核兵器廃絶に向けた取組に賛同いただく中で、G7広島サミットで表明された「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」にもあるとおり、世界の政治指導者や若者への広島・長崎訪問の働き掛けに格別の御配慮をお願いいたします。

また、昨年6月に開催された核兵器禁止条約の第1回締約国会議では、核兵器に依存している国がオブザーバー参加する中で、核兵器禁止条約がNPTに貢献し、補完するものであることも強調されました。こうしたことを踏まえ、NPT再検討会議での橋渡し役を果たすとともに、まずは次回の締約国会議に是非ともオブザーバー参加し、一刻も早く締約国となり、核兵器廃絶に向けた動きを後押しするよう、積極的な外交展開をお願いいたします。

さらに、広島で開催された「核兵器のない世界に向けた国際賢人会議」や「G7広島サミット」に続き、NPT再検討会議を始めとする核軍縮・不拡散に関する会議など、様々な国際会議の広島開催に向け、引き続き格別の御配慮をお願いいたします。